

2014年 自閉症・発達障害児者支援セミナー

認定NPO法人 みやぎ発達障害サポートネット
〒980-0013 宮城県仙台市青葉区花京院一丁目4-1

助成事業の概要

「2014年自閉症・発達障害児者支援セミナー」
として、①自閉症・発達障害についての専門的な
学びの場を提供すること ②障害や発達の特性に
ついて、正しい理解を広め、支援のさらなる充実
を図ること という目的のもと、全2回のセミナー
を実施した。

◆第1回 「自閉症スペクトラムの理解と告知に ついて」（平成26年8月30日）

講師：吉田友子氏（児童精神科医・よこはま発
達クリニック勤務）。

内容：障害の正しい理解と支援についてと、
子ども本人への伝え方について留意すべき事
柄を具体的に学んだ。

◆第2回 「苦手が“できる”に変わる 体の発達と 生活動作について」（平成26年9月23日）

講師：鴨下賢一氏（専門作業療法士（福祉用具・
特別支援教育）静岡県立こども病院勤務）。

内容：体の発達の仕組みと作業療法としての視
点が大切であることを知り、実践を交えて支援
のポイントを学んだ。

事前準備としては、講師の方と内容や日程の調整、
会場の準備、案内チラシの作成・配布、資料の作
成等を行った。

2回のセミナー実施終了後、会報誌での報告と、
事業の実施内容をまとめた報告書を作成し、会員
と関係機関に500部配布した。

事業の成果

全国的に活躍されている講師の先生方の講話は、
多くの実践例を交えた内容で、参加者が理解や支
援の方向性を再確認でき、新しい視点も得られた
と感じている。それは、参加者から寄せられた言
葉にも表現されており、今後、着実な支援に結び
ついていく有意義なものであると考える。

保護者や家族、支援者（保育士、幼稚園教諭、教師、
福祉事業所職員）など、延べ200名の参加とな
り、多くの人が、学ぶ場を設けることで発達障害
理解への歩みを進めていると考える。

参加が、対象児者への理解を深め、支援に活かす
ための大きなヒントを得たことにより、対象児者
のより安心・安定した生活と、周囲との関係性の
改善など、将来への展望を持つことに貢献できたと
考える。

第1回セミナーでは、幼少期からの成功体験と自
尊感情の積み重ねが、のちに告知を迎える時期の
本人自身の受けとめに重要になってくるというこ
とを再認識させられ、日頃の支援の大切さをあら
ためて考えることができた。また、多くの支援者
が、療育や相談の場面で保護者とどのように考え
ていけばよいかの指針を得ることができた。

第2回セミナーでは、作業療法としての視点から、
体の仕組みや支援のポイントを学んだ。様々な動
作の際に見られる不器用さには原因があることを
知り、体の発達には順序があることや、細やかな
動作は段階を経て習得されていくことを学んだ。
多くの実践に基づいた内容であり、大変分かりや
すかった。セミナー後、学びを活かして家庭で実

践したり、当法人療育事業で取り入れた。その中で、子どもをサポートする際に、褒めながら肯定的に関わるという、障害特性に寄り添った支援のあり方を実感することができた。

セミナー終了後に作成した報告書を500部配布し、より多くの人にこの事業の成果を伝えることができた。

セミナー開催にあたっては、2つのねらいのもと、職員が一丸となって取り組み、実現できたことを、それぞれの役割の中で感じることもできた。また、対象児者への理解と支援についての必要性をあらためて実感し、活動意欲を高めることができた事業となった。

成果の広報・公表

ブログ「虹っ子広場」では、8月30日に第1回セミナー、9月23日に第2回セミナーの報告記事を掲載した。ブログのアクセス数は、一日120～150件。ツイッターやフェイスブックによる拡散が図られている。

会報誌「すぽっと」第95号（9月25日発行）には第1回セミナー「自閉症スペクトラムの理解と告知について」、同第96号（10月25日発行）には第2回セミナー「苦手が“できる”に変わる 体の発達と生活動作について」の報告記事を掲載し、会員および関係各所に合計2,000部配布し、成果の公表を試みた。会員は、仙台市内や近隣市町村、県外の保護者や支援者。関係各所は、発達障害に関わる行政や民間の支援機関、福祉事業所、特別支援学校、大学の研究室、宮城県・仙台市内の児童館、仙台市内の市民センターや施設など。

更にこの事業のまとめとして、趣旨や講演内容、成果をまとめた報告書を作成し、会員および関係各所に500部送付し、事業の成果を多くの方に知っていただけるよう試みた。

今後の展開

今回のセミナー終了時に実施したアンケートから、「学ぶ機会」を強く求める声が多数寄せられた。その内容は、発達障害の理解や支援のあり方について様々な事柄があり、中でも、思春期の対応に関することや、大人になった方の事例を知り、今の子育てに活かしたいという声が寄せられている。

しかし、自閉症・発達障害の診断数は全国的に増加傾向にあるが、診断後、必要とされる障害の理解や支援のあり方について学ぶ機会、本人や家族を支える場が、まだまだ不足しているのが現状である。

そこで、発達障害に関する現状の把握に努め、ニーズを整理して、次年度以降も理解と支援に結びつく研修会を実施したいと考える。より多くの方に参加していただけるよう、テーマを設定する、対象者に効果的に呼びかける、周知の仕方を工夫する、開催時期を吟味するなど、有意義な研修会が開催できるよう、計画的に進めたい。

「発達障害のある人とその家族が、人格の尊厳を保ち、安心して暮らせる社会づくりに貢献すること」という法人の活動目的を抱きながら、自閉症・発達障害の理解と支援がより一層広まるよう、団体として継続的に活動したいと考える。